



デバイス トラッキング

- [デバイス トラッキング \(1 ページ\)](#)
- [追跡済みデバイスのフィルタリング \(2 ページ\)](#)

デバイス トラッキング

デバイス トラッキングの有効化または無効化

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 は、ネットワーク内の次のデバイスを追跡できます。

[**Configure**]、[**Tracking**] の順に選択して、デバイス トラッキングを有効または無効にします。

- Wireless Clients
- 干渉 (Interferers)
- Rogue Access Points
- RFID
- Rogue Clients

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 ダッシュボードから有効なコンポーネントを表示します。

それぞれの [**Show / Hide**] ボタン (目のアイコンで表示) を有効にすると、ダッシュボードでコンポーネントを表示できます。

図 1 : [**Dashboard**] : 合計数ツールバー



Cisco DNA Spaces : 検出と検索 は、10 分のデバイス削除時間を維持します。コントローラ から更新 (RSSI、AOA、情報、統計情報) を受信している限り、デバイスはアクティブなままで、ダッシュボードに表示されます。この削除時間内にデバイスの更新 (RSSI、AOA、情報、統計情報) を受信しないと、デバイスはシステムから削除されます。

しきい値とカットオフの設定

[Configure]>[Location Setup] を選択して、さまざまなしきい値とカットオフを設定します。

- **[Relative discard RSSI time (secs)]** : ここに指定する期間 (秒単位) の経過後に、RSSI 測定が古いものと見なされ、位置計算に使用されなくなります。この時間は、最新の RSSI サンプルからの時間であり、絶対時間ではありません。たとえばこの値を 3 分に設定し、2 つのサンプルが 10 分と 12 分で受信される場合、両方のサンプルが保持されます。ただし、15 分に受信された追加サンプルは無視されます。
- **[Absolute discard RSSI time (mins)]** : 最新サンプルに関係なく、ここに指定する時間の経過後に、RSSI 測定が古いものと見なされ、位置計算に使用されなくなります。
- **[RSSI Cutoff (dBm)]** : サーバーが AP 測定を無視する RSSI カットオフ値を dBm 単位で入力します。

図 2: しきい値とカットオフの設定

Field Name	Value	Action
Relative discard RSSI time (secs)	60	Save
Absolute discard RSSI time (mins)	60	Save
RSSI Cutoff (dBm)	-75	Save

追跡済みデバイスのフィルタリング

追跡済みデバイスのフィルタリング

[CONFIGURE] > [Filtering] タブのさまざまなパラメータで、追跡したデバイスをフィルタリングできます。

- **[RSSI Cutoff]** : 弱いプロービングクライアントをフィルタリングするためのカットオフ値を指定します。このカットオフ値により、Cisco DNA Spaces : 検出と検索 は初期段階にあり精度の低いプローブ中のクライアントを除外できます。

- **[Enable Locally Administered MAC Filtering]** : トグルボタンを使用して、ローカルで管理される MAC フィルタリングを有効または無効にできます。
- **[Exclude Probing Only client]** : トグルボタンを使用して、プローブ専用クライアントを除外または含めることができます。
- **[Allow MAC Address]** : 許可される MAC アドレスのリスト。
- **[Disallow MAC Addresses]** : 許可されない MAC アドレスのリスト。
- **[Enable MAC Filtering]** : このトグルボタンを使用して、MAC フィルタリングを有効または無効にできます。
- **[Allow Location SSID Filtering]** : 許可される SSID のリスト
- **[Disallowed Location SSID Filtering]** : 許可されない SSID のリスト。

